継なげ百年の伝統
創れ新たな軌跡

100
YEARS

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校
創立100周年記念誌

愛媛県立宇和高等学校
三瓶分校歌

作詞 坂村 真民
作曲 中田 喜直

一、たちばなの 花は薫り
みんなみの 潮はひびく
海山の 静かなるところ
真理を究めむ
ひとみかがやき
栄冠の彼方 希望は燃ゆる
希望は燃ゆる

二、庭に湧く 清き泉
たらちねの ゆかりもふるく
いまもなほ そびゆる学び舎
よき人とならむ
願ひをこめて
尽きぬ流れに 心を洗ふ
心を洗ふ

三、西南の 伊予の文化
はまゆふの 花と開きて
栄えゆく 美しき三瓶
その名ひびかせむ
理想をいだき
若き命を 鍛えて集ふ
鍛えて集ふ

昭和三十一年十月制定

継なげ百年の伝統
創れ新たな軌跡

100
YEARS

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校
創立100周年記念誌

目　次

発刊のことば
学校長　山下　博司 …… 3

挨拶・祝辞
同窓会長　朝井　秀幸 …… 4
ＰＴＡ会長　三好　栄治 …… 4
西予市長　管家　一夫 …… 5
創設関係者（山下亀三郎孫）山下洋次郎 …… 5

記念行事
記念体育祭 …… 7
記念演奏会 …… 8
記念式 …… 8
記念講演 …… 9
記念主張コンテスト …… 9
記念文化祭 …… 10
記念サバイバルウォーク …… 11

校旗・校章・校歌 …… 12
教育目標 …… 13
記念シンボルマーク …… 13
第二山下高等女学校校歌 …… 13

歴史
歴代校長 …… 14
沿革の概要 …… 16
第二山下実科高等女学校 …… 18
第二山下高等女学校 …… 20
家庭科（専攻科） …… 30
（併設）山下西南中学校 …… 31
愛媛県立三瓶高等学校（定時制） …… 32
愛媛県立三瓶高等学校（全日制） …… 38
創立90周年からの10年 …… 54

思い出の記 …… 68

記念講演会　西澤孝一氏 …… 72

職員一同 …… 78

現在
年間行事 …… 84
部活動・授業風景 …… 86
校内の風景 …… 88
三瓶町の風景 …… 90

編集後記・編集委員 …… 92

発刊のことば

学校長
山下　博司

このたび、本校の創立100周年を記念して、地域の皆様、同窓生の皆様及び保護者の皆様の御協力・御支援のもとに、栄えある記念式を挙行するとともに、宇和高等学校三瓶分校100周年記念誌を発刊することになりました。

本校は、大正９年４月18日、第二山下実科高等女学校として設立され、津布理公会堂を仮校舎として入学式を挙行し、同年５月20日に財団法人の設立並びに学校設置の認可を得ました。以来、専科の設置、中学校の併設がなされ、昭和23年には県立移管により愛媛県立三瓶高等学校として発足しました。その後も定時制の開設、校舎の建設、運動場の拡張など、幾多の変遷を経て今日に至り、本年度記念すべき創立100周年を迎えることができました。これまでに卒業生は1万１千人を超え、各界において有為な人材として、また地域の活性化を支える人材として活躍しています。これもひとえに、歴代の校長先生や教職員をはじめ地域の皆様関係各位の方々の御指導・御尽力によるものと心から敬意と感謝を申し上げます。

創設者である山下亀三郎氏は、「自らが努力と奮闘の結果、海運王として多大な成功を収めることができたのは慈母の訓育のたまものである」として、大正６年５月、吉田町に山下実科高等女学校を設立し、ついで慈母の生地である三瓶町に第二校として本校を設立しました。以後、建学の精神は生徒・教職員により代々引き継がれ、毎年４月18日には校母祭が行われています。

また、世界的に知られる詩人の坂村真民先生が国語教師として教鞭をとりつつ詩作に従事され、「卒業後も人間形成に永く影響を与えるものを」との思いから、校歌を作詞され、現在も高らかに歌い継がれています。先生は、校庭にあった枯れることのない泉を「コギトの泉」と名付けられ、愛されたことから、三瓶高校では様々な場所や場面で「コギト」という言葉が用いられ、学校活動や生徒の生活意識の中にも「コギト文化」が深く根付いてきました。「コギト」とは「自己意識」、すなわち「自分が存在していることに気付く」大切さを教えており、「思いやりの心、向上する心、健やかな心」の「三高スピリット」の源泉となっています。

今年４月、入学者の減少から分校となりましたが、三瓶分校では、三瓶高校をこれまで支えていただいた方々の意志を受け継ぎ、地域に根ざした魅力ある学校づくり、地域の未来を担う人財の育成を目指して、日々の教育活動を行っているところです。今年度から、西予市の御協力により公営塾の開設がなされ、生徒の主体的な学習への取組を支援し、地域の課題を発見・解決する力の育成を視野に入れ、これからの時代が求める新たな学力の育成に取り組むことで、より確かな進路実現が可能となりました。これからも、創立100周年を一つの節目として、これまで営々と築き上げてきた三瓶高校のよき伝統や校風を尊重・継承して、三瓶分校独自の人材育成に努めてまいります。

おわりに、記念事業の一環として、本校の歴史を記録にとどめるために、編集に携わり御尽力いただきました関係各位に心から感謝とお礼を申し上げ、発刊に寄せる言葉といたします。

宇和高等学校三瓶分校 創立100周年にあたって

同窓会長
朝井　秀幸

愛媛県立宇和高等学校三瓶分校創立100周年おめでとうございます。

平素より、同窓会活動及び母校の教育活動にお力添えを受け賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本校は1920年（大正9年）海運王・山下亀三郎氏が「自分が国家の役に立てるのは母のおかげである」として特に女性の教育に力を注ぎたいと考え、第二山下実科高等女学校として創立されました。今年、創立100周年を迎えられますことは大変喜ばしく、これまで母校を支えて頂いた関係の皆様方に卒業生を代表し、あらためて感謝とお礼を申しあげたく存じます。

この100年の間「文武両道」を掲げ伝統を継承し、多くの有用な人材を各界に輩出してまいりました。母校を巣立った卒業生は1万1千人を超え、県内はもとより日本中、世界の各方面で活躍しており、私共の大きな誇りとするところであります。

近年、学校を取り巻く環境や制度が大きく変化を遂げ、三瓶高校も生徒数激減という厳しい環境に直面するようになりました。同窓会としてもあらゆる努力を重ねて参りましたが、この度の分校化で宇和高等学校三瓶分校となりました。しかし「三高スピリット－思いやりの心・向上する心・健やかな心」は今なお息づいており、学校名は変わっても創設者のチャレンジ精神を根底に日々の生活の中で高い目標を掲げ、三瓶分校生としての誇りと自信を胸に生活していただきたいと思います。

世界に目を向けると100周年のこの年に、世界中が新型コロナウイルスと戦っております。世界が新しい転機を迎えようとしているようです。日本の将来の道も平坦なものではなく、大変な時期はまだしばらくは続くと思いますが、ともに乗り越えて参りましょう。

最後になりましたが、これまで本校の発展にご尽力されました教職員、PTA、同窓会、そして地域の皆様に深く敬意を表すとともに、皆様には今後とも、様々な場面でお世話になることと存じますが、これまで以上に温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

後から来る者のために

PTA会長
三好　栄治

日本の海運王として大活躍された山下亀三郎翁は、大正6年に宇和島市吉田町に山下実科高等女学校を設立し、その3年後に、母親の生誕地である三瓶町に第二山下実科高等女学校を設立しました。

三瓶の地に生まれた本校は、三瓶町の教育の一翼を担いながら、歴史ある高校へと成長したことは言うまでもありません。一例を挙げると、明徳義塾高校野球部監督の馬淵史郎、プロ野球選手の塀内久雄、卓球の世界チャンピオンの小野誠治、詩人の宮中雲子など数々の著名人が本校の卒業生です。この伝統ある学校は、今年100周年を迎え、その記念すべき年に生徒の保護者でいられることを私は誇りに思います。

かつて2万人を超えていた三瓶町の人口は、7,000人を切りました。そして、平成26年度から三瓶町内の小学校が統廃合され、この少子化の波は三瓶高校にも、容赦なく襲い掛かってきました。令和2年度から、愛媛県立宇和高等学校三瓶分校となり、現在、この三瓶分校を存続させるべく、保護者・地域を巻き込んで、様々な活動が行われております。その中でも代表的な活動が、公営塾事業です。放課後の空き教室を活用し、市が委託した地域おこし協力隊の方の指導のもとで学習することにより、学力の向上を図るものです。この公営塾では、地域づくりなど多角的な授業が展開され、子どもたちの学力向上のみならず、社会的成長も期待できます。これは、島根県の「隠岐島前高校」が廃校寸前に追い込まれたとき、「公営塾」を立ち上げ、隠岐の島以外からの入学者を増加させた成功例を参考にしたものです。三瓶分校においても、隠岐島前高校同様に成功するよう、保護者として協力していきたいと思います。

さて、先輩方から受け継いだバトンは、今私たちが握っています。このバトンを次世代へ引き継ぐことが、私たちの保護者の最大の使命だと思っています。坂村真民先生の詞「あとからくる者のために」にあるように、今私たちができることは、これから三瓶分校に入学してくる子どもたちのために、この学校に更なる魅力を加えることであると思っております。そのために、保護者一同協力して参りたいと思います。そして、まずは、創立110周年をみんなで祝えるように頑張りましょう。

「創立100周年記念誌」の発刊によせて

西予市長
管家　一夫

このたび、愛媛県立宇和高等学校三瓶分校が創立100周年を迎えられ、盛大に記念式を挙行されますとともに、記念誌を刊行されますこと心からお慶び申し上げます。

貴校は、「海運王」とも称される「山下亀三郎」氏が、故郷への社会貢献のため、母の郷里であった三瓶町に「第二山下実科高等女学校」を創設したことが起源で、これまでに１万１千人以上の卒業生を輩出されるとともに、地域の教育振興の柱として大きく貢献されてまいりました。

これもひとえに、歴代校長先生をはじめとする諸先生方の献身的なご努力と、学校を支えてこられたPTA、同窓生の皆様、そして地域の皆様の教育に対するご理解とご協力の賜物であり、心から敬意を表する次第です。

さて、貴校は、入学者の減少などを理由に、本年から分校化されました。卒業生をはじめ、これまで学校存続のためにご尽力いただきました関係者の皆様の胸中をお察しするとともに、私も市内の高等教育が縮小していくことに、懸念と危機感を抱かずにはいられません。

人口減少、少子化が進む中で、今まさに市内の他の高等学校も同じ問題に直面しようとしています。

そこで、西予市では、市内の３県立高校の魅力向上を支援するため、今年度から貴校に「公営塾」を開設し、次年度以降、宇和高校、野村高校に拡充する予定としております。塾では、学習支援や受験対策に加え、地域課題解決や人材育成の観点も取り入れ、市内外からの入学者増を図り、卒業後に地元に残る効果を期待しています。

また、本市では、学校教育や社会教育の両面において、平成30年７月豪雨の被災経験を活かしつつ、「四国西予ジオパーク」と関連づけた防災教育に取り組みます。子どもたちに災害の記録や記憶を継承し、教訓とするとともに、まちの歴史や文化、成り立ち等を学ぶ機会を創出し、防災意識の高揚と災害対応力の向上に努めます。

どうか皆様方におかれましては、公営塾や防災教育などの取り組みにご理解とご協力をいただき、学校を支える応援団として、今後ともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、「三瓶スピリット－思いやりの心・向上する心・健やかな心」を養い、これまでの伝統を重んじつつ、新しい時代に向けて、貴校がさらなる飛躍を遂げられますようご祈念申し上げ、挨拶といたします。

挨　拶

創設関係者　山下亀三郎　孫
山下洋二郎

私の祖父、山下亀三郎は、事業家として多大なる成功を収めましたが、それは慈母の訓育の賜物であるとして女子教育の大切さを深く感じ、「良妻賢母と女子教育の充実、地域文化の振興」を図るために、大正6年5月、郷里吉田町に財団法人山下実科高等女学校を設立しました。ついで、３年後の5月にお母様の生地に当たる三瓶町に第二校として本校を設立しました。それぞれ、愛媛県立吉田高校と愛媛県立宇和高校三瓶分校と名前を変えていますが、両校は共に亀三郎が設立した姉妹校であります。

亀三郎は現在の宇和島市吉田町の生まれです。７人兄弟の末っ子で、相当なガキ大将だったそうです。15歳で宇和島中学を辞め、風呂敷一つで家出をし、その後しばらくは、宇和島の知人宅にお世話になっていましたが、その時、お母様敬子さんの使いという人が現れ、「男子がいったん村を逃げでて、おめおめ村へ帰ってくるようなことがあってはならない。大手を振って、村の道を歩いて帰れるようになるまでは帰ってくるな」と伝言を告げられました。それを聞いた祖父は、「故郷に錦を飾るまでは、故郷には帰らない！」と決心をして故郷を後にしました。その後、紆余曲折があり、祖父は、努力と奮闘の結果、日本を代表する海運王として多大な成功を収めました。ただ成功を収めただけでなく国、および公共に対する奉仕の考えにより、明治、大正、昭和の３つの時代で大活躍し、多くの社会事業にも熱心に取り組みました。そして、晩年には、当時は若き天皇であった昭和天皇の御講義役を務めました。

本校では、今もお母様敬子さんを偲んで、「校母祭」と称し、創立記念のお祝いを全校で行っているそうですね。お母様が、祖父にとって、とても大きな存在であり、実科高等女学校を設立した祖父の、女子教育にかける強い志や思いを、皆さんが思い出してくれているのをうれしく思います。現在は共学になっていますから、良き親となるための教育の大切さを言っているのだと思います。皆さんは、どうぞ本校でしっかり勉強して、地域や日本、ひいては世界のために活躍できる人となってください。そして、そのような子どもを是非、皆さん自身が育ててください。ご健闘とご活躍をお祈りします。

三瓶高校スピリット
思いやりの心〔徳〕
向上する心〔知〕
教育方針
祝創立100周年
継げ百年の伝統
創れ新たな軌跡
100YEARS

記念行事

記念体育祭

令和２年９月５日(土)

記念演奏会

令和２年 10 月 22 日(木)

記念式

令和２年 11 月７日(土)

記念講演

令和２年 11 月７日(土)

記念主張コンテスト

令和２年 11 月８日(日)

記念文化祭

令和２年 11 月８日(日)

記念サバイバルウォーク

令和２年 11 月 18 日㈬

三瓶高校 校旗

三瓶高校 校章

外側の三つの正六角形は、美しい浜辺にいず方ともなく流れ寄った三つの瓶を示し、それに真理探究の象徴であるペンを同じく三つ添えたものである。
［図案　新穂義幸氏］
［昭和25年　制定］

愛媛県立三瓶高等学校校歌

作詞 坂村 真民
作曲 中田 喜直

一、たちばなの 花は薫り
みんなみの 潮はひびく
海山の 静かなるところ
真理を究めむ
ひとみかがやき
栄冠の彼方 希望は燃ゆる
希望は燃ゆる

二、庭に湧く 清き泉
たらちねの ゆかりもふるく
いまもなほ そびゆる学び舎
よき人とならむ
願ひをこめて
尽きぬ流れに 心を洗ふ
心を洗ふ

三、西南の 伊予の文化
はまゆふの 花と開きて
栄えゆく 美しき三瓶
その名ひびかせむ
理想をいだき
若き命を 鍛えて集ふ
鍛えて集ふ

昭和三十一年十月制定

教育目標

三瓶スピリット

記念シンボルマーク

MIKAME

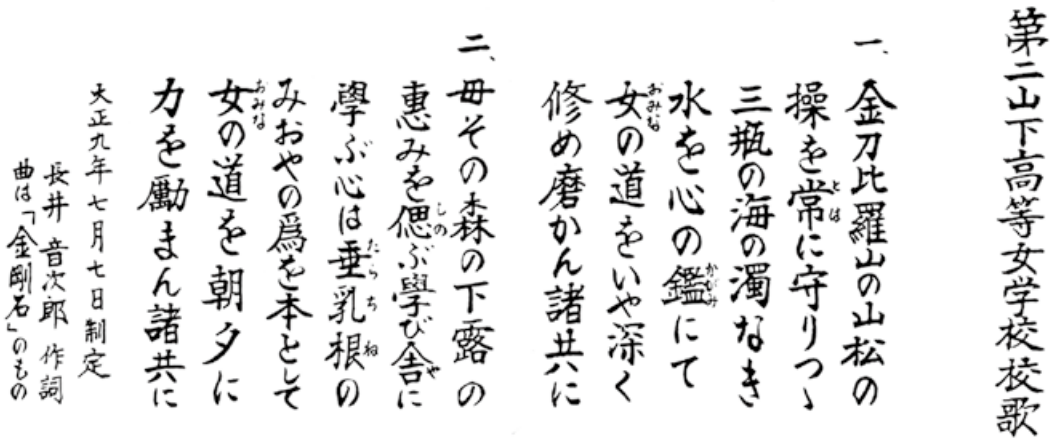
継なげ百年の伝統
創れ新たな軌跡

［第二山下高等女学校胸章］

［山下西南中学校校章］

輪郭は鏡、真上に緑色で校歌の山松を中央に山下の頭文字「Y」。赤色で三つの瓶を組み合わせて女学校の「女」。
バックは淡青色で濁りなき三瓶の海の色を表現したものである。
（左：戦前、右：戦後）

山下西南高等学校もいずれできるということを想定して作った徽章であり、SはSeinanの「S」を、HはHigh Schoolの「H」を表し、さらに中央の炎は、教育が人を育て世の先がけとなるもの、世を照らすものであることを意味している。



第二山下高等女学校校歌

一、金刀比羅山の山松の
操を常に守りつゝ
三瓶の海の濁なき
水を心の鑑にて
女の道をいや深く
修め磨かん諸共に

二、母その森の下露の
恵みを偲ぶ學び舎に
學ぶ心は垂乳根の
みおやの爲を本として
女の道を朝夕に
力を勵まん諸共に

大正九年七月七日制定
長井音次郎 作詞
曲は「金剛石」のもの

歴代校長

初代
長井音次郎

第２代
大谷　義松

第３・４代
佐伯　秀雄

第５代
曽我部熊五郎

第６代
横田　章臣

第７代
三好　清明

第８代
池川　　安

第９代
末平　芳美

Topics
人物紹介

創設者　山下亀三郎

母　敬子（校母）

山下亀三郎

山下亀三郎、生母出身地の関係にて本校の創設を発起する。

〈創設の趣旨〉

山下亀三郎氏は、事業家として多大なる成功を収めた。それは慈母の訓育の賜であるとして女子教育の大切さを深く感じ、大正６年５月、氏の郷里吉田町に山下実科高等女学校を設立した。ついで、慈母の生地たる当三瓶町に第二校として本校を設立したのである。

山下亀三郎氏略歴

一、慶応3年4月9日、北宇和郡吉田町（喜佐方村）大字河内の庄屋の末っ子として生まれる。
　父源治郎、母敬子
一、明治15年、15才の時、郷里を出奔
一、明治44年、山下汽船合名会社を創設。（後山下汽船株式会社）
一、大正15年８月、フランス政府より「グラン・トフィシェ・ド・ロルドル・ロワイヤール・デュ・カンボージュ」勲章を授けられる
一、昭和18年、内閣顧問に任ぜられる
一、同年９月、天皇の御前において御進講
一、同19年12月13日（77才）大磯の別邸にて死去。勲一等瑞宝章を授けられる
　法号「大用院殿義海超僊大居士」

（創立60周年記念誌より）

第10代
大塚　国利

第11代
門多　寿道

第12代
井伊　信博

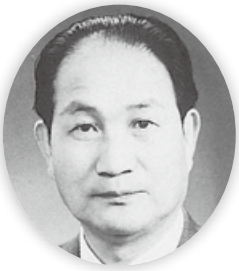
第13代
砂田　肆朗

第14代
河野　頼雄

第15代
宝来　久道

第16代
矢野　　守

第17代
三好　甫明



第18代
井上　　誠

第19代
藤原　正継

第20代
青木　忠一

第21代
青木　憲一

第22代
仲田　正夫

第23代
西本　修文

第24代
片山　　茂

第25代
佐々木靖夫

第26代
中村　光宏

第27代
河野　昇治

第28代
星川　志朗

第29代
山下　博司

沿革の概要

第二山下実科高等女学校

大正	8. 4.	山下亀三郎生母出身地のゆかりで第二山下実科高等女学校創立発起
	8. 12.	第二山下実科高等女学校設立申請
	9. 2. 25	財団法人設立申請
	9. 3. 7	第二山下実科高等女学校設置認可申請
	9. 4. 18	入学式挙行　第1・2学年生　計77名 校母祭（開校記念日）
	9. 5. 20	第二山下実科高等女学校　財団法人設立及び学校設置開校認可
	10. 6.	本館　木造2階建1,294.44㎡新築
	10. 9. 25	開校式挙行
	13. 3. 7	組織変更第二山下高等女学校認可

第二山下高等女学校・併設山下西南中学校

昭和	18. 2. 16	生徒定員400名に変更認可
	19. 12. 13	理事長山下亀三郎死亡、嗣子山下太郎就任
	20. 3.	校地拡張及び校舎木造2階建936.52㎡新築
	21. 3.	理事長山下太郎辞任、木村長吾就任
	22. 4. 1	新制男女共学山下西南中学校を併設
	23. 4. 1	新制男女共学山下西南高等学校となる
	23. 4. 27	県立移管

愛媛県立三瓶高等学校

昭和	23. 5. 25	4月1日にさかのぼり愛媛県立三瓶高等学校となる
	24. 9. 1	愛媛県立三瓶高等学校開校
	24. 10. 7	講堂木造平屋建396.79㎡新築
	24. 10. 10	創立30周年式典挙行
	25. 4. 1	定時制（普通科）開設
	27. 5.	校舎増築　運動場拡張
	29. 3.	校門開設　温室設置　自転車置場設置
	30. 12.	校長公舎新築及び職員公舎2戸校外へ移転
	31. 6.	学校図書館木造2階建330.64㎡新築
	31. 10.	校歌制定
	32. 4.	生徒定員全日制450名　定時制200名
	36. 6. 15	本館木造2階建667.76㎡及び用務員室並びに職員便所木造平家建62.87㎡新築
	36. 10. 4	創立40周年記念式典挙行
	38. 4. 1	生徒定員　全日制565名　定時制180名
	39. 4. 1	生徒定員　全日制680名　定時制170名
	39. 4. 5	女子制服改定　男子便所撤去
	39. 5. 31	生徒用便所　木造平家建60.89㎡新築
	39. 7.	職員浴室・工作室　木造平家建14.64㎡新築
	40. 4. 1	生徒定員　全日制750名　定時制160名
	42. 4. 1	生徒定員　全日制740名　定時制160名
	42. 7. 1	運動場拡張工事完成4,473㎡
	43. 3. 31	第2教棟移転
	43. 4. 1	生徒定員　全日制720名　定時制160名

	44. 1. 29	特別教棟新築落成　本館移転
	44. 3. 31	図書館及び校舎移転
	44. 4. 1	生徒定員　全日制 650 名　定時制 160 名
	44. 7. 7	旧校舎撤去
	44. 9. 11	大運動場完成 13,200㎡
	45. 3. 31	講堂移転　格技場に用途変更
	45. 4. 1	生徒定員　全日制 590 名　定時制 160 名
	45. 7. 13	通学用道路橋竣工「山下橋」と命名
	45. 10. 31	体育館新築
	45. 11. 21	創立 50 周年記念及び整備事業 5 年計画完成記念式典挙行
	46. 4. 1	生徒定員　全日制 540 名　定時制 160 名
	47. 7. 23	体育館に音楽室、同準備室増築
	52. 7. 31	普通教棟撤去 第 1 期工事、本館鉄筋 4 階建、延 1,059,00㎡完成
	53. 7. 25	木造 2 階建図書館・木造本館など危険校舎改築により取壊し
	53. 12. 14	体育館 1 階に美術室、同準備室、普通教室、定時制職員室、保健室増築
	54. 2. 22	第 2 期工事　本館鉄筋 4 階建、延 1,111.12㎡ 渡り廊下鉄筋 3 階建　198㎡完成
	54. 4. 10	創立 60 周年記念事業として山下記念館、山下亀三郎氏胸像、コギトの泉復元及び記念庭園の完成
	54. 6. 15	同上建物寄付受入
	55. 3. 27	格技場　鉄骨造 2 階建（1 階部分　自転車置場）完成
	55. 4. 19	講堂（格技場に用途変更）を卓球場に用途変更
	55. 11. 2	創立 60 周年及び整備事業計画完成記念式典挙行
	61. 3. 31	定時制課程閉校
	63. 3. 31	体育器具収納庫完成
	63. 6. 24	防球ネット設置
平成	1. 4. 1	スクールカラー制定
	2. 4. 1	女子制服改定（学年移行）
	2. 11. 14	創立 70 周年記念式典挙行
	5. 4. 1	生徒定員　全日制 1 学年　135 名
	8. 4. 1	生徒定員　全日制 1 学年　80 名
	8. 10. 31	運動場西側に庭園（コギトの杜）完成
	10. 4. 1	生徒定員　全日制 240 名
	12. 9. 25	創立 80 周年記念事業（通用門、コギトの道）完成
	12. 11. 4	創立 80 周年記念式典挙行
	14. 2. 12	防球ネット設置（体育館側）
	14. 10. 31	特別教棟耐震・改修工事完成
	15. 9. 16	防球ネット設置（ライト側）
	15. 10. 31	体育館大規模改修工事完成
	16. 10. 20	防球ネット設置（レフト側）
	17. 8. 31	商業教室エアコン設置
	18. 1. 31	本館高架水槽改修
	18. 12. 27	防球ネット設置（レフト～センター側）
	22. 4. 1	生徒定員　全日制 1 学年　60 名
	22. 11. 6	創立 90 周年記念式挙行
	25. 4. 1	体育館耐震改修工事完了
	25. 11. 25	「社会貢献青少年」内閣府特命担当大臣表彰
	27. 3. 26	本館、普通科教棟、武道場耐震改修工事完了
令和	2. 4. 1	分校化に伴い、愛媛県立宇和高等学校三瓶分校に校名変更
	2. 11. 7	創立 100 周年記念式挙行

第二山下実科高等女学校

（大正８年～13年）

仮校舎（津布理公会堂）前にて　第１回入学生（大正９年）

第二山下実科高等女学校は、大正９年５月に文部省から念願の学校設置認可がおりた。入学式は許可より早く同年４月に挙行されている。当時まだ「男尊女卑」の風潮は根強く、「よく集まって 20 名位」と予想していた入学生は、驚くことに３学年合わせて 77 名であった。当初、校舎建設が間に合わず、津布理の公会堂が仮校舎に充てられていたという。大正 10 年２月には、理事長山下亀三郎氏が来校し、学校設立の精神について講演を行っている。

「沈みつ浮きつ」山下亀三郎著より

私の今日までの経歴から言って、女学校の設立と云うことは、不思議のやうに世の中では思う者もあったやうだが、私としては、実は少しも不思議ではない。私は時々の機会に申し述べて居るとおり、子女の感化というものは、全く母の膝下に育てられている間にそのを根柢をなすものであって、母の膝下にいる間に間違った神経でも入ろうものなら、その子どもに対して如何なる方法で如何なる教育を施しても、真に役に立つ男子も女子もできるものではないと信じて居る。～ 私が今日まで凡ゆる辛苦艱難を嘗めつくした末、どうやらかうやら多少でも国家に貢献の出来るやうになったと云うその基礎は全く母である。それで母に対する感謝の意味としても、母を作る学校を建てて見たいと思ったのである。

沿革 History

大正

8.4	山下亀三郎生母出身地のゆかりで第二山下実科高等女学校創立発起
8.12	第二山下実科高等女学校設立申請
9.2.25	財団法人設立申請
9.3. 7	第二山下実科高等女学校設置認可申請
9.4.18	入学式挙行　第１・２学年生　計77名 校母祭（開校記念日）
9.5.20	第二山下実科高等女学校財団法人設立及び学校設置開校認可
10.6	本館　木造２階建新築
10.9.25	開校式挙行
13.3. 7	組織変更第二山下高等女学校認可

校舎完成直前（大正10年）

当時の教科書

正門前での秋の収穫風景（大正10年頃）

大正10・11年頃の女学生

第１回卒業生同窓会記念（大正12年３月４日）

実科高女第３回卒業生（大正13年３月）

第二山下高等女学校

（大正13年～昭和24年）

当時の校舎

大正13年3月、組織変更のため第二山下高等女学校と校名が変わる。修業年限は4年となり、生徒の定員も増加した。敷地内には校舎・寄宿舎・職員住宅が立ち並び、周囲を板塀で囲い、あたかも「女子教育の城」ともいうべき様相を呈していたようである。大正14年には初めての京阪神方面への修学旅行を実施している。なお、この校名は、太平洋戦争の終戦を経て、昭和24年に最後の卒業生を送り出すまで存続した。

校母祭について

毎年、4月18日は「校母祭」と称して、創立記念のお祝いを全校で行っています。この日は、朝、全校集会で記念式を行い、放課後、教職員と代表生徒が山下亀三郎氏のお母様である敬子様の遺骨が分骨されている高福寺へ、新任の先生方と代表生徒がお寺にお参りに行きます。ちなみに敬子様は、三瓶町安土の出身で、大正5年（1916年）12月3日89歳で吉田町でなくなられています。なぜ今でも、「校母祭」を毎年行うのかというと、お母様の存在が、亀三郎氏にとって、とても大きな存在であり、実科高等女学校を設立した、亀三郎氏の創立当時の、強い志や思いをしっかりと私たちが受け継いでいこうと思っているからです。

沿革 History

昭和
18.2.16　生徒定員400名に変更認可
19.12.13　理事長山下亀三郎死亡、嗣子山下太郎就任
20.3.　校地拡張及び校舎木造２階建新築
21.3.　理事長山下太郎辞任、木村長吾就任
22.4.1　新制男女共学山下西南中学校を併設
23.4.1　新制男女共学山下西南高等学校となる
23.4.27　県立移管

教職員一同（大正14年）

修学旅行　奈良三笠山において（大正14年４月27日）

第５回卒業生（大正15年３月）

第５回尚歯会（大正14年10月29日）

尚　歯　会

第二山下実科高女の本館が落成したのは、開校より一カ月遅れの大正十年六月であった。

木造二階建て一棟。職員室、会議室、裁縫室、講堂兼作法室、一般教室六などから成っていた。

第一回尚歯会が開かれたのは、その年の十月二十九日であった。尚歯とは「お年寄りを尊敬すること」。尚歯会とはつまり、いまでいう「敬老会」のようなものである。

（毎日新聞より転載）

寮生（昭和３年４月）

第８回尚歯会（昭和３年10月28日）

第二山下高等女学校の校庭には、清らかな泉が湧いており、憩いの場であった。後に、坂村真民先生により、「コギトの泉」と名付けられる。（昭和4年）

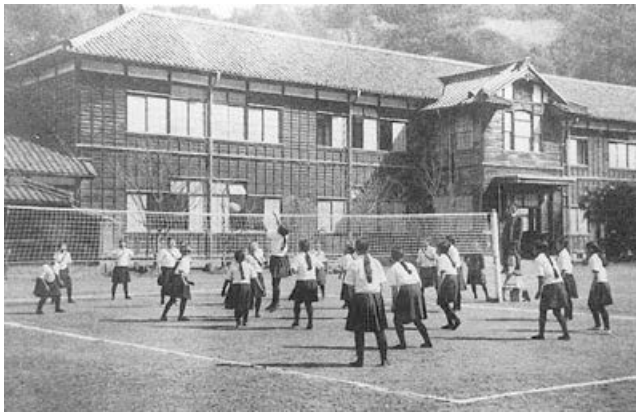
昭和5年の女学生
セーラー服になったのは
大正15年11月

第9回卒業記念（昭和5年3月）

当時の教科書

作法実習（昭和6年）

校門（昭和８年）

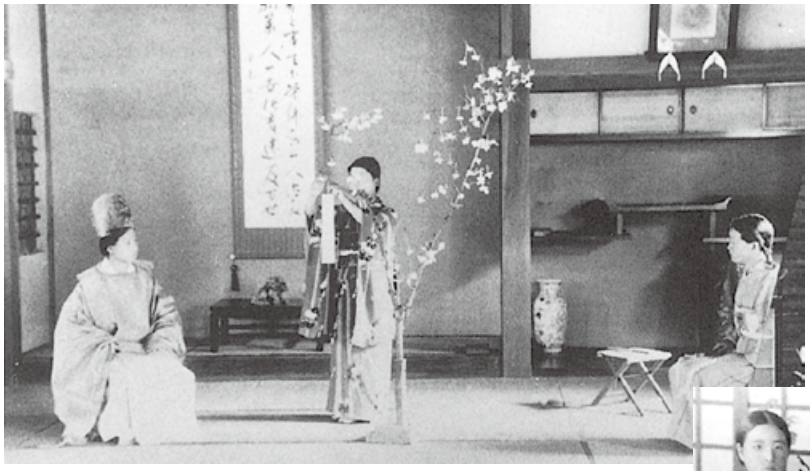


運動部（昭和７年）

授業風景（裁縫）

排球部　大森先生と選手一同（昭和８年頃）

第16回卒業記念（昭和12年）

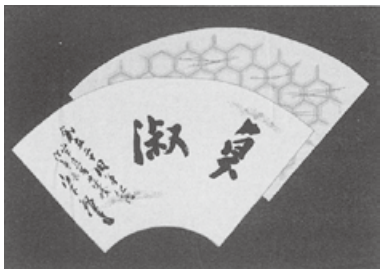


第17回卒業生による能の演技［熊野］（昭和12年）

昭和13年頃の女学生

授業風景（調理実習）

昭和 13 年 3 月 15 日
日華事変の影響で
20 周年記念式典中止



記念品（小袱紗）のみ

勤労作業（昭和13年）

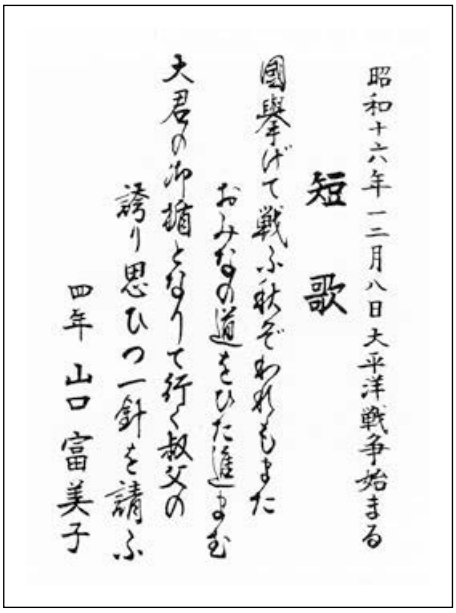
第二山下高等女学校全景（昭和15年5月2日）

家庭科被服実習（昭和15年）

当時の三瓶町

2600年記念梅林植樹―津布理川堤防（昭和15年春）

寄宿舎生（昭和16年）



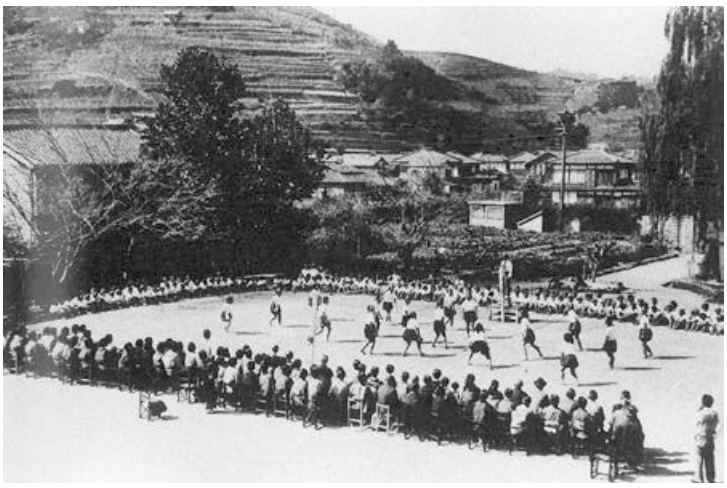
昭和十六年一二月八日 大平洋戦争始まる

短歌

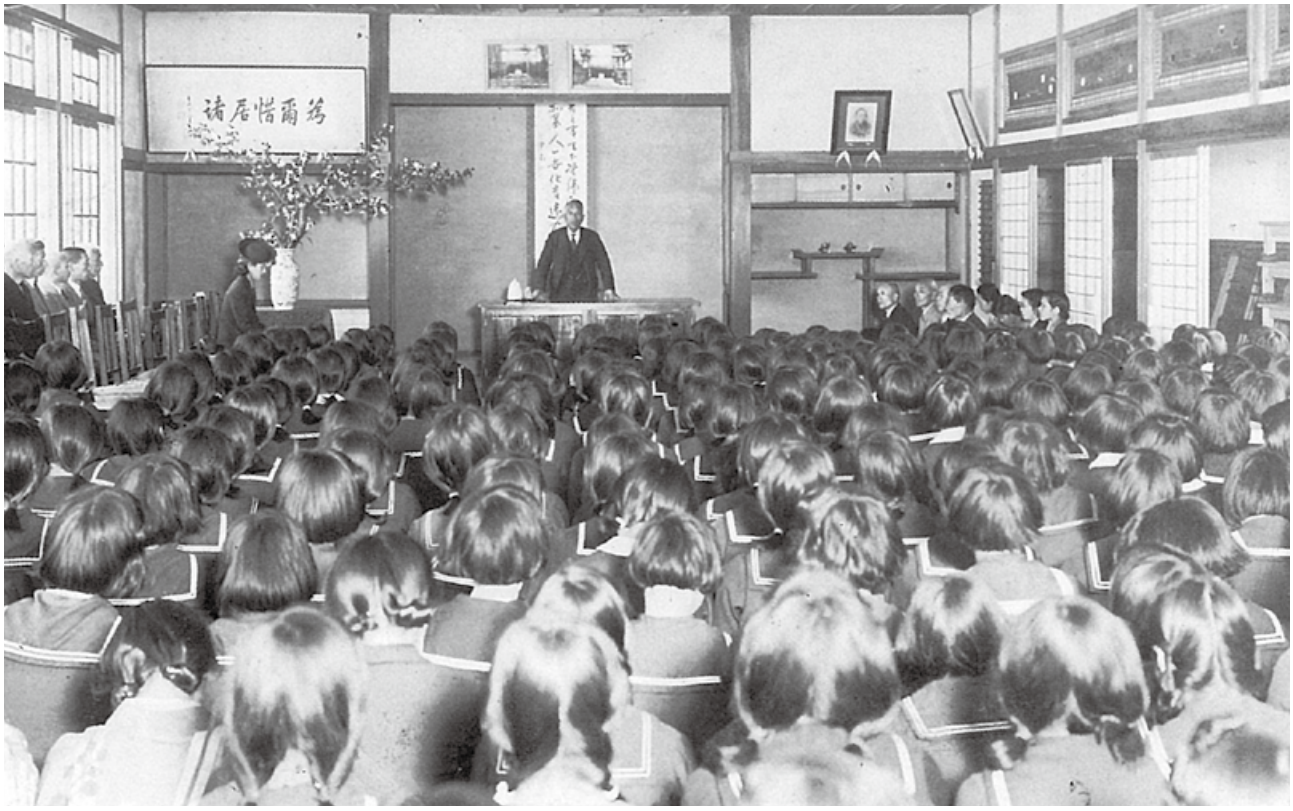
國擧げて戰ふ秋ぞ和れもまた
おみなの道をひたすらまむ

大君の御楯となりて行く叔父の
誇り思ひつゝ針を請ふ

四年 山口 富美子



通学組合対抗バレー大会（昭和16年）



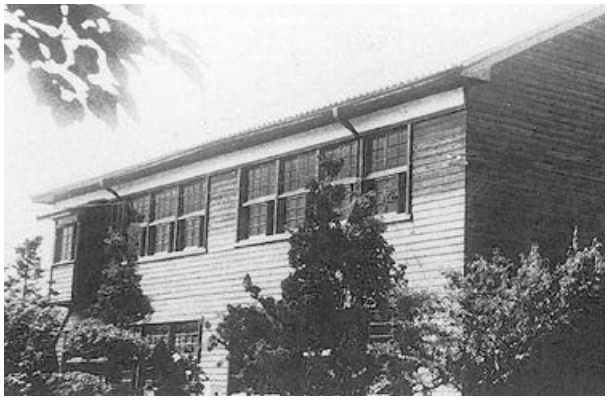
山下理事長講演（昭和17年）

集団勤労奉仕・二木生村（昭和17年11月）

雪の日に（昭和18年１月）

水害のあとしまつ勤労作業（昭和18年7月）

昭和 18 年 7 月 24 日
谷川道の氾濫により
役場・国民学校を中心として
一帯大浸水
本校生徒被害地の復旧作業に
従事

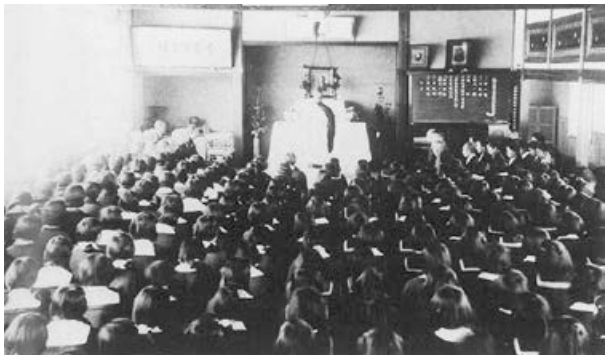


増築校舎（昭和19年６月１日）

夏期鍛錬草刈（昭和19年８月）

学徒動員出発前（安土桟橋）
大阪陸軍造兵廠へ向けて（昭和19年11月13日）

酒六三瓶工場に出勤　休憩時の体操（昭和19年８月25日）



故山下亀三郎氏葬儀　遥拝式（昭和19年12月17日）

（昭和19年）

風船爆弾

太平洋戦争が始まり、学園内には次第に軍事色が強まった。

同年四月、従来の校友会が解消され、報国団が組織された。ねらいは

「学校長以下職員一体となり、修練の方法を講じ、以て教育強化の徹底を図ると共に臨戦時局下における各種の国策に即応し（中略）銃後青少年学徒として鍛錬奉公すべく……」

というものであった。

松山市の湯山小教諭、菅野俊子（十七年卒）は学校新聞で

「女学生でありながら勉学は第二。毎日勤労奉仕だ、実習だと目まぐるしかった。一年を通じて数えるぐらいしかスカートははかず、マンボズボンのなり振ないのようなモンペをはいて通学していた」

と、振り返っている。

こうした時代を反映してか、学園内も穏やかな空気ばかりでなかった。

「ちょっと、あんた生意気よ。こっちへ来なさい」

上級生に礼をしなかったばかりに校庭の隅に呼び出され、ぐるりと取り囲まれて襲え上がった下級生もいた。

戦局が緊迫し、ついに昭和十九年十一月、三年生約五十人が大阪陸軍造兵廠へ勤労動員。

三瓶町の橋本（旧姓宇都宮）昭代（同二十一年卒）は

「来る日も来る日も、トタン板の上でコンニャクノリを使って上質和紙を何枚も重ね、壁一枚ほどにはり付ける仕事ばかりでした」

と、回想。

同級の植田即三男・三瓶町長夫人、仲枝は

「新兵器だと言われてがんばり、家族にもこのことを手紙に書きました。星空をあおいで寮へ帰ると、立ち仕事の疲れから足がぐったりなって」

と、語っている。

山下高女などの生徒たちが作った紙は、大阪の製造場で溶剤を塗った風船に仕上げられた。

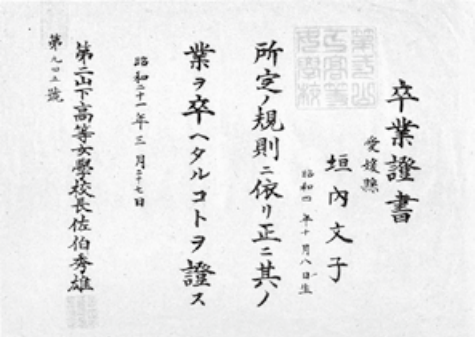
直径約十㍍、積載量約四㌧。水素ガスを充満して上昇、日本冬季の亜成層圏の気流に乗り、八千㌔の太平洋を横断したあと自動爆弾が働いて風船を焼き、つるしてあった爆弾が落下する仕組みであった。

全国でつくった風船爆弾は九千三百個。千葉県の海岸などから放たれ、一部はアメリカの太平洋沿岸で山火事を起こしたが、期待されたほどの戦果はなかった。

二十年六月二十七日、動員解除。帰郷途中、岡山大空襲のため下車、線路沿いを歩くハメになり、三瓶に帰り着いたのは七月一日であった。

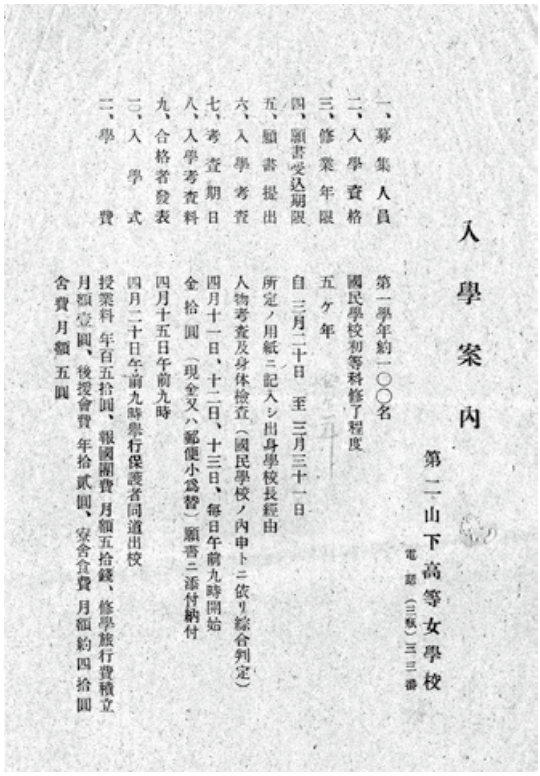
（毎日新聞より転載）

第25回卒業記念（昭和21年３月）



卒業證書

愛媛縣
垣内文子
昭和四年十月八日生
所定ノ規則ニ依リ正ニ其ノ
業ヲ卒ヘタルコトヲ證ス
昭和二十一年三月二十七日
第二山下高等女學校長佐伯秀雄
第九四五號



入學案内

第二山下高等女學校
電話（三馬）三三番

一、募集人員　第一學年約一〇〇名
二、入學資格　國民學校初等科修了程度
三、修業年限　五ヶ年
四、願書受込期限　自三月二十日　至三月三十一日
五、願書提出　所定ノ用紙ニ記入シ出身學校長經由
六、入學考査　人物考査及身体檢査（國民學校ノ内申トニ依リ綜合判定）
七、考査期日　四月十一日、十二日、十三日、毎日午前九時開始
八、入學考査料　金拾圓（現金又ハ郵便小爲替）願書ニ添付納付
九、合格者發表　四月十五日午前九時
一〇、入學式　四月二十日午前九時學行保護者同道出校
一一、學費　授業料　年百五拾圓、報國團費　月額五拾錢、修學旅行費積立　月額壹圓、後援會費　年拾貳圓、寄舍食費　月額約四拾圓　舍費月額　五圓

昭和21年度　第二山下高等女学校入学案内

もみすり（昭和21年秋）

３学期終了クラス会（昭和22年3月）

合同劇「ふるさとの野口英世」朝日座にて（昭和22年2月27日）

運動会（昭和23年）

郷土歌　三瓶の歌

㈠ 一つひかるは　金の瓶
二つふしぎな　銀の瓶
三つみしらぬ　バラモンの
魔法使ひの　鐵の瓶

㈡ 金の瓶には　赤い酒
銀の瓶には　白い酒
鐵の瓶には　バラモンの
魔法使ひの　黒い酒

㈢ 一つ飲んでは　踊りましょ
二つ飲んでは　歌ひましょ
三つ飲んでは　バラモンの
魔法をごらんに　入れましょう

㈣ 山にきらきら　日がのぼる
海にゆらゆら　日がしづむ
三瓶三つの　ものがたり
遠いむかしの　ものがたり

「三瓶の歌」振付け

Topics 人物紹介

坂村　真民

昭和21年から４年余り、本校の国語科教諭として勤務した。また、詩人としても活躍し、その慈愛に満ち、人間性にあふれた作風は多くの人々に感動を与えた。本校の校歌、生徒歌の作詞者でもある。

坂村　真民氏略歴

明治42年（1909）	１月６日熊本県玉名郡府本村に生まれる。（現在荒尾市） 本名昂（たかし）
昭和６年（1931）	神宮皇學館（現在の皇學館大學）卒業
昭和９年（1934）	朝鮮にて教職に就く。
昭和21年（1946）	私立山下第二高等女学校の教員となる。「蒼穹」同人佐伯秀雄氏が校長であった縁に依る。国語教師として教鞭をとりつつ詩作にも力を注ぐ。その後吉田、宇和島東、新田高校に赴任。砥部町に居を構える。
昭和49年（1974）	新田高等学校退職。詩作に専念。
昭和55年（1980）	文部省中学校教育課『道徳指導要領三』に、詩「二度とない人生だから」が採録され、多くの教科書に掲載されるようになる。
平成18年（2006）	12月11日、97歳で伊予郡砥部町にて永眠。

家庭科（専攻科）

（昭和16年～23年）

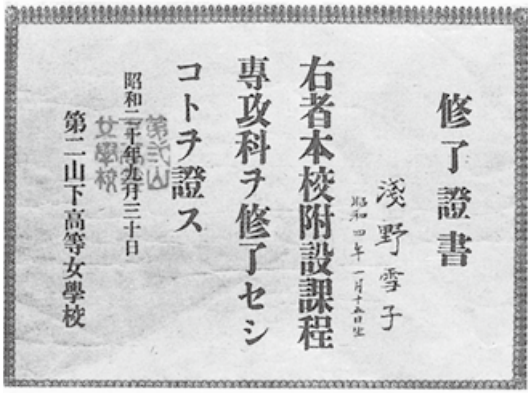
第５回家庭科専攻科修了生（昭和23年３月）

昭和 16 年 4 月、新たに家庭科が設置された。最初の家庭科生は 14 名であった。教室は作法室を使用し、教育課程には、裁縫・家事理論・珠算・書道・割烹・茶道・華道などがあった。昭和 23 年、５回目の卒業生を送り出したあと県立移管に伴い、廃止される。

第１回家庭科専攻科修了生（昭和17年３月）

家庭科修学旅行（昭和17年５月）

第４回家庭科専攻科修了生（昭和22年３月）



修了證書

淺野雪子

昭和四年一月十五日生

右者本校附設課程
専攻科ヲ修了セシ
コトヲ證ス

第弐回

昭和二十年九月三十日

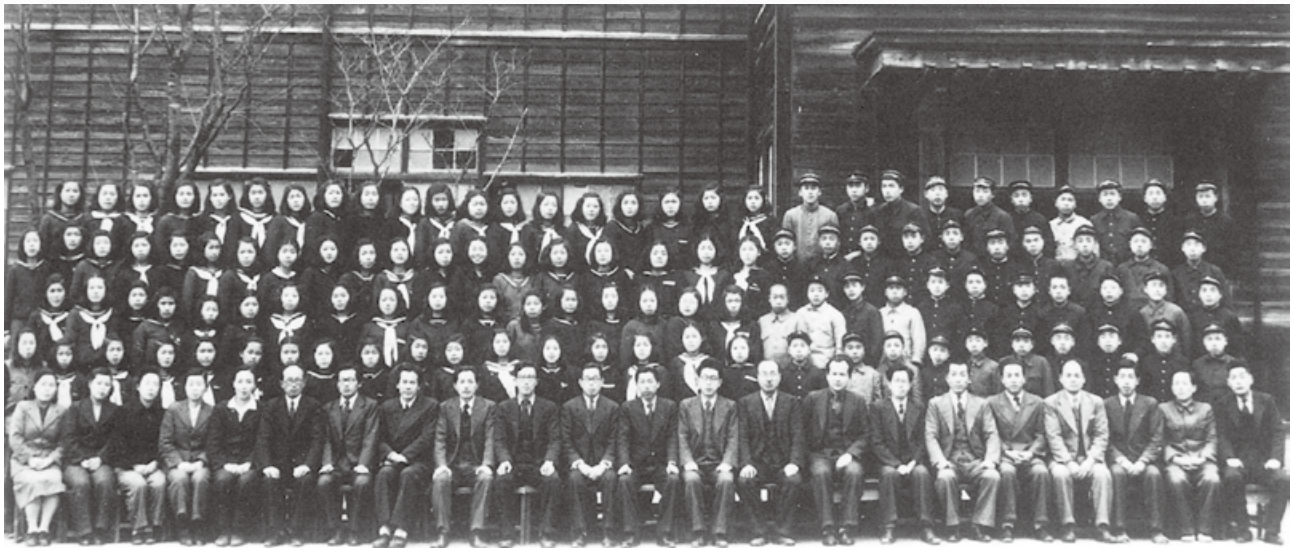
女學校

第二山下高等女學校

修了証書

（併設）山下西南中学校

（昭和22年～26年）



第３回卒業記念（昭和25年３月18日）

昭和 22 年 4 月、新制男女共学山下西南中学校が併設された。5 月には新憲法実施記念式も挙行されている。職業的色彩を濃厚にした学習を中心に置いた将来地域を背負う人物を育成する実務科と、高等学校及び大学へと進学するための基礎的学科の修得に重点を置いた学芸科の二つの課程が置かれていた。

校章

運動会（昭和22年10月）

運動会（昭和23年10月）

沿革 History

昭和

22.4.15　新制男女共学山下西南中学校第１回入学式挙行
23.3.19　中学校第１回卒業式
23.4.17　中学校第２回入学式挙行
24.3.20　中学校第２回卒業式
25.3.18　中学校第３回卒業式
26.3. 9　併設中学最後となる第４回卒業式

愛媛県立三瓶高等学校（定時制）

（昭和25年～61年）

第１回卒業式（昭和29年３月10日）

昭和 25 年４月、待望されていた愛媛県立三瓶高等学校定時制課程の開設が認可され、同月、入学式及び始業式が挙行された。第１回入学生は 60 名に上った。年齢は 30 歳から 50 歳代までと幅広く、職業も様々で、中には妻帯者もいた。昼の仕事と夜の勉学の二重生活はとても厳しいものであっただろうが、家庭的な雰囲気の中、その歴史は昭和 61 年まで続いた。

校章

第６回卒業生（昭和34年３月）

第13回卒業生（昭和41年３月）

体育祭（昭和42年）

南予総体（昭和44年）

三瓶高校に定時制課程が設置されたのは、昭和二十五年四月であった。他校より開設が遅れること二年。待望されていただけに、第一回入学生は六十人にのぼった。

普通科一クラス。修業年限は四年。年齢も三十歳から五十歳台まで。もちろん妻帯者もおり、職業も町役場職員、製材工、理髪店員、敷島紡績従業員など、さまざま。

当時、校長で自ら歴史を教えた曽我部熊五郎（松山市）は

「とにかく教師よりずっと年配の生徒がいたから心配でしたが、そこは心得たもので、若い教師にじんわり質問するのを見て感心したものです」

と、話している。

昼の仕事と夜の勉学の二重生活。つい気がゆるむと、いつの間にか居眠り。教師も

「眠っておいてもかまわんが、いびきだけは邪魔になるぞ」

と、生徒に注意していた。

（毎日新聞より転載）

遠足（昭和51年）

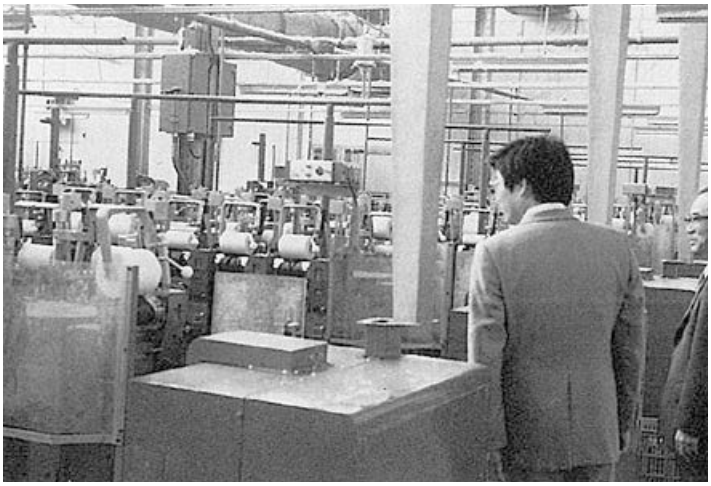
体育祭（昭和46年）

昭和53年度　県定通制総合体育大会

予餞会（昭和49年）

予餞会（昭和54年）

昭和54年度　県定通制総合体育大会



職場訪問（昭和55年５月13日）

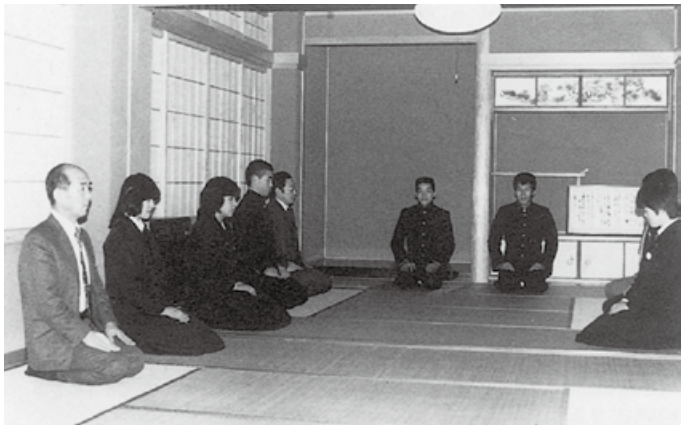
職場訪問（昭和55年５月17日）

県定通制総合体育大会（昭和55年９月６・７日）

昭和55年度　職員生徒一同

予餞会（昭和58年）

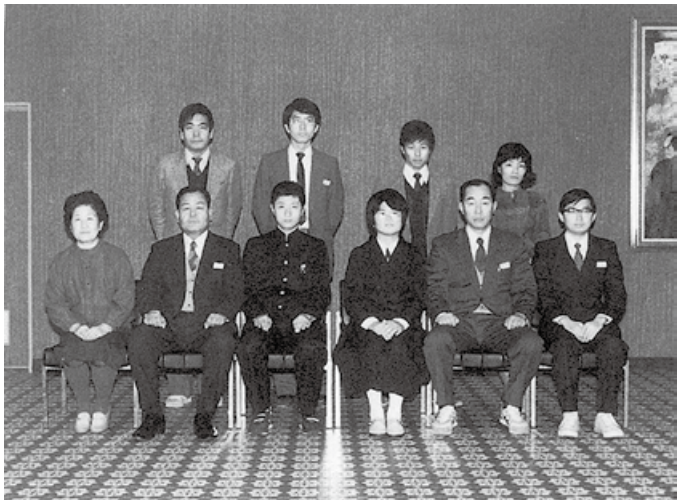
生活体験発表会（昭和58年９月）



お茶会（昭和58年）

昭和58年度　職員生徒一同

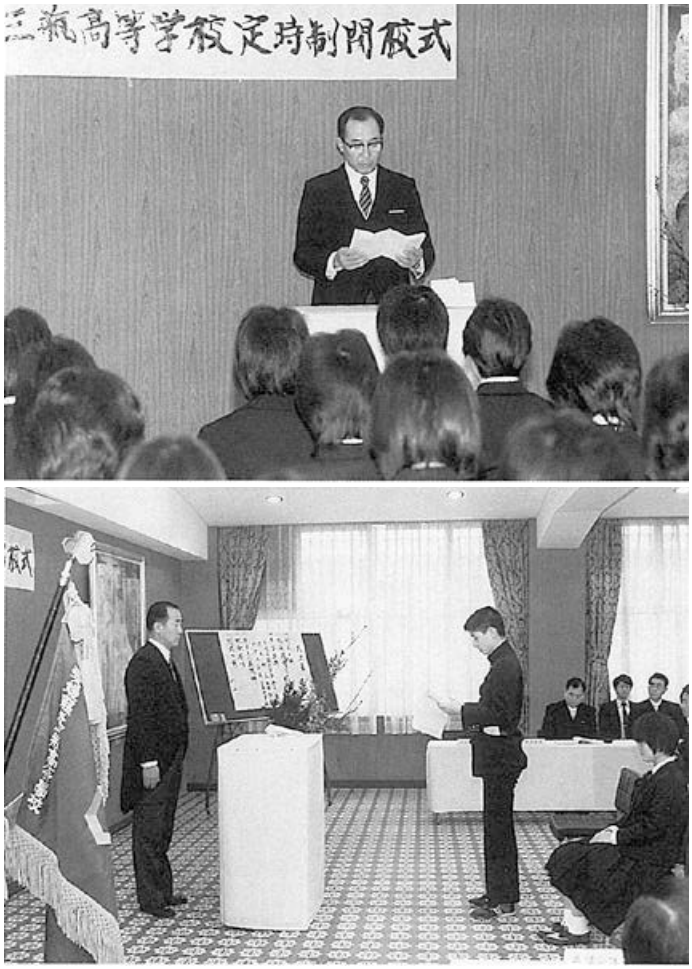
渦潮最終号



第33回卒業生・教職員一同（昭和61年３月）

定時制課程閉校式（昭和61年３月１日）

定時制最後の卒業生による記念植樹（昭和61年３月１日）



定時制課程閉校式（昭和61年３月１日）

30余年の定時制に幕

三瓶高
吉田高

今年限りで閉校する県立三瓶高校、吉田高校の両定時制卒業式と閉校式が一日行われ、それぞれ最後の卒業生を送り出し三十余年の歴史を閉じた。

同日午前の三瓶高校（矢野守校長）定時制の卒業、閉校式には卒業生の河野哲也さん（二）と、浅野清美さん（二）と教職員、全日制在校生ら約九十人が出席。矢野校長が「時代の流れとはいえ地域の勤労青少年に学習の場を提供してきた本校が閉校するのは残念。しかし卒業生約三百八十人の〝定時制魂〟は脈々と生き続けており、今後もこの気持ちを忘れず頑張ってほしい」とあいさつした。これに対して河野さんが「級友が次々と去っていった時は寂しい思いをしたが、四年間頑張ってきて本当によかった。私たちは最後の卒業生として定時制魂を忘れず、先輩の名を汚さぬよう頑張ります」と謝辞を述べた。式のあと二人は校庭に記念植樹し拍手に送られて思い出の学舎を後にした。

（愛媛新聞より転載）

愛媛県立三瓶高等学校（全日制）

（昭和23年～平成22年）

昭和32年頃の校舎

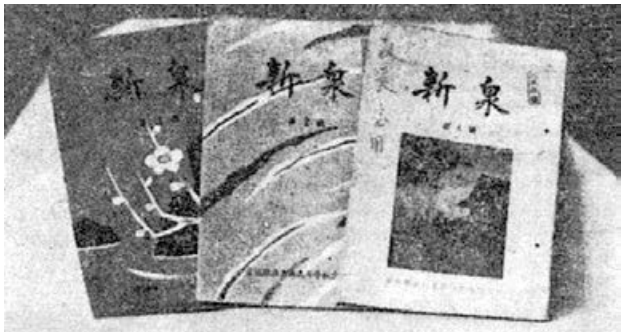
昭和23年、県立に移管され、愛媛県立三瓶高等学校となった。昭和31年には坂村真民氏作詞、中田喜直氏作曲による校歌が正式に制定された。その後昭和40年代から、新本館、特別教棟、記念館の建設や運動場の整備などが進められる。同時に、野球部・陸上競技部・卓球部をはじめとする部活動の四国大会や全国大会での活躍、家庭クラブなどの課外活動の充実、サバイバルウォークなどの新たな学校行事が次々と始まった。地域に根ざした、地域の学校である三瓶高等学校の歴史は、いよいよ90周年を迎えた。

県立三瓶高等学校第１回卒業生

沿革 History

昭和
23.5.25　４月１日にさかのぼり、愛媛県立三瓶高等学校として発足
24.9.1　愛媛県立三瓶高等学校開校
24.10.7　講堂木造平屋建新築
24.10.10　創立30周年記念式典挙行
25.4.1　定時制（普通科）開設
27.5　校舎増築　運動場拡張
29.3　校門開設

当時の正門



当時発刊の生徒会誌

校訓三則

1. 理想に燃え常に真理の探究者となろう。
2. 教養を高め常に自己人格の完成に努めよう。
3. 明直にして常に先導者たるの自覚に立とう。

仮装行列（昭和27年）

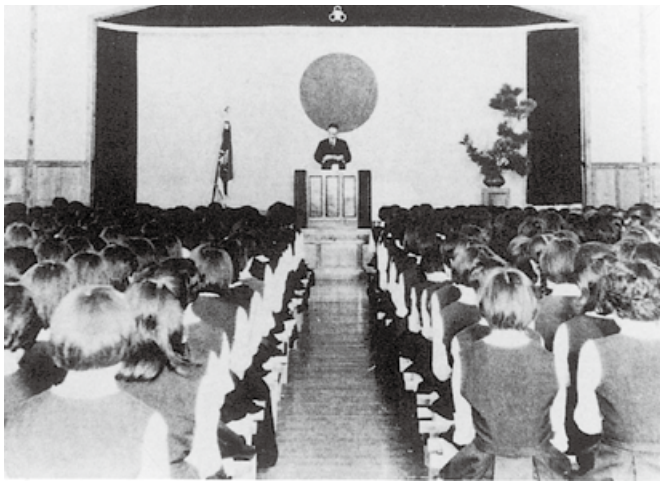
御手洗より二本松までの遠泳大会

家庭クラブ（昭和29年12月23日）

体育大会２年女子全員で「野菊のワルツ」（昭和30年）

運動会ダンス（こんぴら船々、三瓶音頭、庭のさんしゅの木）（昭和35年）

女子バスケットボール部全国大会出場（昭和35年）



創立40周年記念祭（昭和36年）

朝日文楽

昭和三十四年三月二十一日愛媛県指定文化財〝民族資料〟としてその指定を受け、三十九年三月二十六日〝愛媛県指定無形文化財〟の指定をうけ、同時にその保持者として十五名の人が認定をうけている。明治十二年頃、この三瓶村はまだ文化の恩恵をうけることなく周囲を山に囲まれた一寒村にすぎなかった。そういう時に朝立の部落にいた井上伸作という人が人形を作ったのである、今迄観劇や娯楽というものから遠ざかっていた村人達にとってはそれは一つの大きな異変であった。各家庭からは衣裳が持ち寄せられ、かって悪習になじんでいた若者達は次第に人形に集ってきた。老人や幼児達は彼等の操つる人形に慰めを求めて来、味気ない南予の一寒村にようやく文化の芽が細々とのびはじめていった。

（「三高新聞」より）

沿革 History

昭和

30.12　校長公舎新築及び職員公舎２戸校外へ移転
31.6　学校図書館木造２階建新築
31.10　校歌制定
32.4.1　生徒定員全日制450名　定時制200名
36.6.15　本館木造２階建及び用務員室並びに職員便所木造平屋建新築
36.10.4　創立40周年記念式典挙行
38.4.1　生徒定員　全日制565名　定時制180名

文楽部（昭和39年）

ブラスバンド部（昭和42年）

校舎とその周辺（昭和42年）

サッカー部創部（昭和44年）

卓球部　四国大会団体の部優勝（昭和48年）
小野誠治選手ランキング賞　全国大会３回戦出場

沿革 History

昭和
39.4.1　生徒定員　全日制680名　定時制170名
39.4.5　女子制服改定
40.4.1　生徒定員　全日制750名　定時制160名
42.4.1　生徒定員　全日制740名　定時制160名
42.7.1　運動場拡張工事完成
43.3.31　第２教棟移転
43.4.1　生徒定員　全日制720名　定時制160名
44.1.29　特別教棟鉄筋コンクリート４階建新築落成　本館移転
44.3.31　図書館及び校舎移転
44.4.1　生徒定員　全日制650名　定時制160名
44.7.7　旧校舎撤去
44.9.11　大運動場完成

山下記念館

玄関

坂村真民先生記念講演

昭和55年度　創立60周年並びに本館・記念館落成記念式典挙行さる

第一日。本館・記念館落成神事、山下亀三郎翁胸像除幕式
。記念式典、御祝儀舞、記念講演（坂村真民氏）
。文化祭展示、記念茶会、バザー
第二日。文化祭発表会（吹奏楽、音楽発表、創作ダンス、同窓生・地域有志の協賛出演）
。文楽公演
。文化祭展示、記念茶会、バザー
創立六十周年記念「統一テーマ」並びに「記念賛歌」
。統一テーマ公募入選作
「伝統そして新たな飛躍」
二年三組・笹方志摩作
。記念賛歌公募入選作
三年二組・佐海雅臣、作詞・作曲
補作、教諭・大久保真澄

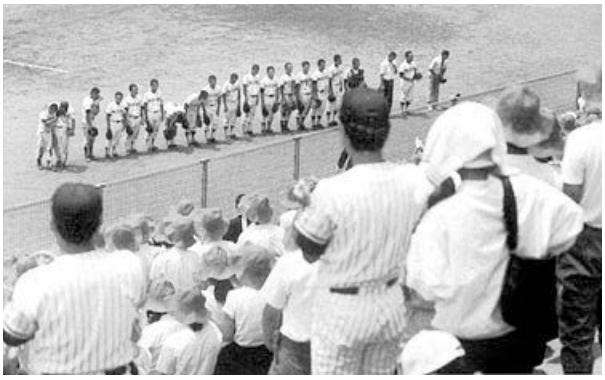
文化祭　文楽部公演（昭和55年）

文化祭　有志による演奏、邦楽部創部のきっかけ（昭和55年）

沿革 History

昭和
45.3.31　講堂移転　格技場に用途変更
45.4.1　生徒定員　全日制590名　定時制160名
45.7.13　通学用道路橋竣工「山下橋」と命名
45.10.31　体育館　鉄筋鉄骨造２階建新築
45.11.21　創立50周年記念及び整備事業５年計画完成記念式典挙行
46.4.1　生徒定員　全日制540名　定時制160名
47.7.23　体育館に音楽室、同準備室増築
52.7.31　普通教棟・木造日本瓦２階建取壊し第１期工事、本館鉄筋コンクリート４階建完成
53.7.25　木造２階建図書館　木造本館など危険校舎改築により取壊し
53.12.14　体育館１階に美術室、同準備室、普通教室、定時制職員室、保健室を増築

第９回全国高等学校総合文化祭出場（昭和60年）



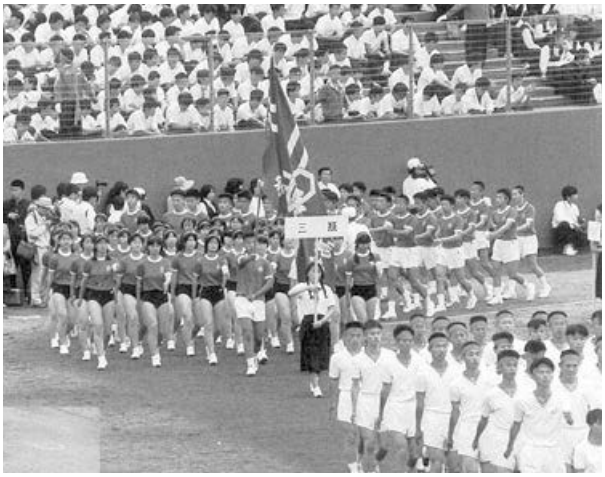
野球夏の県大会　ベスト８（平成２年）

三瓶高憲章

○三高生は、豊かな情性と知性に強靭さを加えよう。
強靭さとは
　克己心…自らに厳しく、他には暖かく
　行動力…悪にも強く、善にも強い

○三高生は、3れ（気後れ・悪びれ・捻（ひね）くれ）を追放しよう。
その基本的方法は
　大きな声に心をこめて　あかるいあいさつ

○三高生は、学校・家庭・社会の全領域で、次の習慣を身につけよう。
知・徳・体　どの分野でも
　問題に気付き、方法を考え、継続して実行できる。
（昭和56年度制定）



県総合体育大会（平成２年）

三高シンボルマーク
決定（平成元年）

第1回　三高シーサイドカーニバル　池の浦海岸（平成元年７月）

三高スピリット

○思いやりの心（徳）
　常に感謝の気持ちを持ち、公共心を培い、他人を思いやるひろい心を育てよう。
○向上する心（知）
　常に学ぶ意欲を抱き、何事にも挑戦し、ゆたかな創造力を育てよう。
○健やかな心（体）
　常に生命の尊さを自覚し、健康な体を養い、美しいものに感動するゆたかな情操を育てよう。
（昭和63年度）

沿革 History

昭和
54.2.22　第２期工事　本館鉄筋コンクリート４階建完成
54.4.10　創立60周年記念事業の一環として山下記念館鉄筋コンクリート３階建完成
　山下亀三郎氏胸像、コギトの泉復元及び記念庭園の完成
54.6.15　同上建物寄付受入
55.3.27　格技場　鉄骨造２階建完成
55.11.2　創立60周年記念及び整備事業計画完成記念式典挙行
61.3.31　定時制課程閉校
63.3.31　体育器具収納庫　補強コンクリートブロック造２階建完成
63.6.24　防球ネット設置

修学旅行（平成7年）

修学旅行　スキー教室（平成7年）

第８回サバイバルウォーク
（平成8年）

サバイバルウォーク　池の浦海岸でバーベキュー（平成11年）

文化祭
県下の高校から平和を願って寄せられる（平成10年）

体育祭（平成12年）

創立80周年記念　航空写真（平成12年５月30日）

沿革 History

平成
元.４．１　スクールカラー制定
２.２．１　体育館床改修
２.４．１　女子制服改定（学年移行）
2.11.14　創立70周年記念式典挙行
５.４．１　生徒定員　全日制１学年　135名
８.４．１　生徒定員　全日制１学年　80名
8.10.31　運動場西側に庭園（コギトの杜）完成
12.９．１　校旗新調
12.９.25　創立80周年記念事業（通用門、コギトの道）完成
12.11.４　創立80周年記念式典挙行

体育祭　猿も木から落ちる（平成13年）

わらじ作り（平成13年）

釣り大会（平成13年）

救急法講習会（平成14年）

体育祭　ひっぱりだこ（平成14年）

野球応援（平成14年）

沿革 History

平成

14.2.12　防球ネット設置（体育館側）
14.10.31　特別教棟耐震、改修工事完成
15.9.16　防球ネット設置（ライト側）
15.10.31　体育館大規模改修工事完成
16.10.20　防球ネット設置（レフト側）
17.8.31　商業教室エアコン設置
18.1.31　本館高架水槽改修
18.12.27　防球ネット設置（レフト～センター側）

文楽鑑賞会（平成15年）

宿泊研修　座禅（平成15年）

体育祭三瓶ソーラン（平成15年）

クラスマッチ　クラス対抗リレー（平成15年）

全国高校駅伝大会（平成15年）

読書会（平成16年）

修学旅行　沖縄首里城（平成16年）

修学旅行　沖縄琉球村（平成16年）

修学旅行　沖縄琉球村（平成16年）

体育祭（平成16年）

クリーン運動　川清掃（平成17年）

文化祭でプロとの共演（平成17年）

野球応援（平成17年）

文化祭オープニング　三瓶ソーラン（平成17年）

ブラジルからの訪問客（平成17年）

語の日の登校風景（平成17年）

春季県大会（平成17年）

体育祭　集団演技（平成18年）

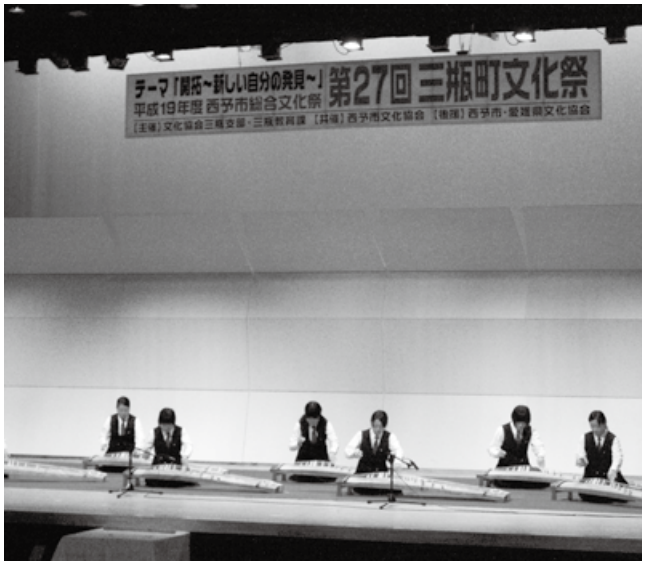
体育祭　グループ応援（平成18年）

修学旅行　長野（平成19年）

修学旅行　中国上海豫園（平成19年）

修学旅行　中国（平成19年）

卒業式（平成19年）



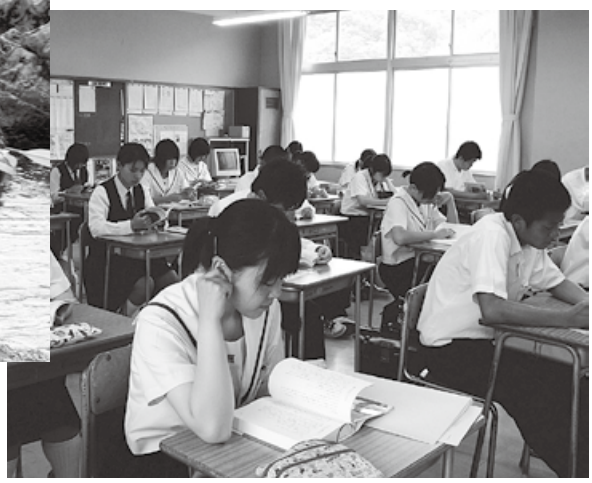
三瓶町文化祭邦楽部箏（平成19年）

文楽観賞会（平成20年）

茶道部ミニ茶会（平成20年）

学校見学（平成20年）

修学旅行　北海道ラフティング（平成20年）



朝の読書タイム（平成20年）

私の主張コンテスト（平成20年）

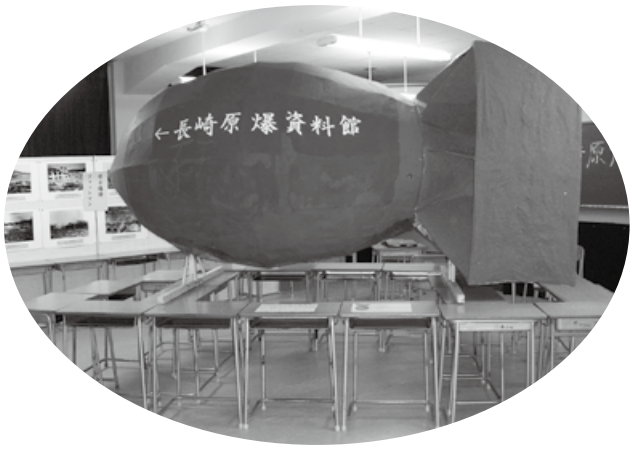
マラソン大会　スタート（平成20年）

高校野球　愛媛県大会開会式（平成20年）

就業体験学習（平成21年）

高校野球　対松山北戦（平成21年）

部紹介　文楽部（平成21年）



文化祭　長崎原爆資料館（平成21年）

体育祭結団式（平成21年）

体育祭　集団演技（平成21年）

奥地の海のかーにばる 人間カーリング（平成21年）

修学旅行　横浜中華街（平成21年）

バレー招待試合（平成22年）

創立90周年記念式（平成22年）

ＡＬＴの授業（平成22年）

創立90周年記念公演（平成22年）

奥地の海でフェスティバル（平成22年）